

岩手県の漁業

—大船渡市を中心として—

2 回生 山崎大地

1. はじめに

近年の日本の漁業は漁業従事者の高齢化、後継者不足などにより衰退してきている。また、東日本大震災を含めた自然災害による設備の破壊、黒潮の大蛇行による沿岸の水産資源の減少、処理水の海洋放出による水産資源に対する不安感などの問題もある。

今回調査した岩手県は東日本大震災の被害を特にうけた県の一つである。また、沿岸に親潮と黒潮がぶつかる潮目があり大変良い漁場となっており、漁業が盛んな県である。本稿では岩手県の漁獲量の約3分の1を占めている大船渡市を中心に調査を行っていく。

2. 岩手県の漁業

1) 全国との比較

まずは岩手県の漁業の特徴を探るために全国との比較を行う。表1の都道府県別海面漁業漁獲量を見ると、漁獲量は太平洋側の地域の方が日本海側の地域よりも多いという傾向があることが分かる。1位北海道から8位宮崎県までは、3位の長崎県以外はすべて太平洋側の県である。そして、9位、10位に日本海側で山陰地域の島根県、鳥取県がきて、11位に今回の調査地域の岩手県がきている。全国順位は内陸県を除いた39都道府県中11位であり、上位3分の1となっており、全国的に見て岩手県は漁獲量の多い県だと言える。

次に表2の都道府県別漁業就業者数を見ると、比較している年は異なるが漁獲量で上位に入っている都道府県が、漁業就業者数も上位に入っている傾向があることが分かる。漁業就業者数も漁獲量と同じように太平洋側の地域の方が日本海側の地域よりも多いという傾向があることが分かる。1位北海道から11位静岡県までは、2位長崎県以外は太平洋に面している。全国順位は内陸県を除いた39都道府県中4位であり、全国的に見て岩手県は漁業従事者の多い県だと言える。また、岩手県は漁獲量に対して漁業従事者が多いという特徴を持っている。

表1 都道府県別海面漁業漁獲量(2021年)

順位	都道府県	漁獲量(t)
1	北海道	910347
2	茨城	299686
3	長崎	247359
4	静岡	206869
5	宮城	184316
6	三重	107377
7	千葉	105505
8	宮崎	101029
9	島根	88917
10	鳥取	85111
11	岩手	79709
12	愛媛	76625
13	青森	66867
14	高知	63687
15	福島	62660

(海面漁業生産統計調査より作成)

表2 都道府県別漁業就業者数(2018年)

順位	都道府県	人数(人)
1	北海道	24378
2	長崎	11762
3	青森	8395
4	岩手	6327
5	宮城	6224
6	愛媛	6186
7	鹿児島	6116
8	三重	6108
9	熊本	5392
10	兵庫	4840
11	静岡	4814
12	福岡	4376
13	山口	3923
14	沖縄	3686
15	千葉	3678

(漁業センサスより作成)

2) 魚種別の漁獲量・漁獲金額

岩手県で主に漁獲されている魚種について見ていく。表3の岩手県魚種別漁獲量上位8品目を見ると、漁獲量の1位、2位は敷網漁によって獲られる魚種であるさば類、いわし類であると分かる。この2種で漁獲量の半分以上を占めている。敷網漁によって効率的な漁獲が行われているため、敷網漁によって獲られる魚種が上位を占めていると考えられる。

次に表4の岩手県魚種別産出額上位8品目を見ると、1位にまぐろ類、2位にいか類がきていて、漁獲量の上位1位、2位を占めていた敷網漁によって獲られる魚種は3位のさんまと6位のさば類となっており、いわし類に関しては9位以下であると分かる。まぐろ類、いか類は漁獲量は限られるが、高価であるため魚種別産出額で上位にきたと考えられる。一方、さば類、いわし類、さんまなどの敷網漁によって獲られる魚種は大量漁獲が可能であるが、安価であるため魚種別産出額で下位となったと考えられる。

表3 岩手県魚種別漁獲量上位8品目(2021年)

魚種	漁獲量(t)	割合(%)
さば類	26187	32.9
いわし類	18225	22.9
たら類	9048	11.4
ぶり類	5181	6.5
まぐろ類	5151	6.5
おきあみ類	3000	3.8
さんま	2444	3.1
いか類	1908	2.4
その他	8563	10.7
総漁獲量	79707	100.2

(海面漁業生産統計調査より作成)

表4 岩手県魚種別産出額上位8品目(2020年)

魚種	産出額(億円)	割合(%)
まぐろ類	62	26.1
いか類	28	11.8
さんま	22	9.2
さけ・ます類	14	5.9
貝類	13	5.5
さば類	12	5.0
ぶり類	11	4.6
うに類	11	4.6
その他	65	27.3
総産出額	238	100

(海面漁業生産統計調査より作成)

3) 漁獲量・漁獲金額の年次推移

岩手県の漁業の年次推移について見ていく。図1の岩手県海面漁業漁獲量の推移を見ると、岩手県の漁獲量は2013年、2014年がピークで徐々に減少していたが、2017年からは2020年は減少したが増加傾向となっていると分かる。また、図2の岩手県海面漁業産出額の推移を見ると、2012年からは2017年までは2016年の減少はあるが徐々に増加していたが、2017年からは減少傾向になっていると分かる。

次に、魚種別の漁獲量、産出額の内訳を見ていく。図3の岩手県魚種別漁獲量の推移を見ると、2012年から2021年までにさば類、いわし類は大きく増加し、たら類は大きく減少し、その他の品目はほぼ横ばいや減少傾向にあることが分かる。また、図4の岩手県魚種別産出額の推移を見ると、2011年から2020年までにまぐろ類は大きく増加したが、その他の品目はほぼ横ばいであることが分かる。

最後に、漁業従事者数の推移を見ていく。図5の岩手県漁業従事者数の推移を見ると、岩手県の漁業従事者数は2003年と2008年の間と2013年と2018年の間は微減であったが、2008年と2013年の間は大きく減少していて、その間は5年で約4000人減少していることが分かる。

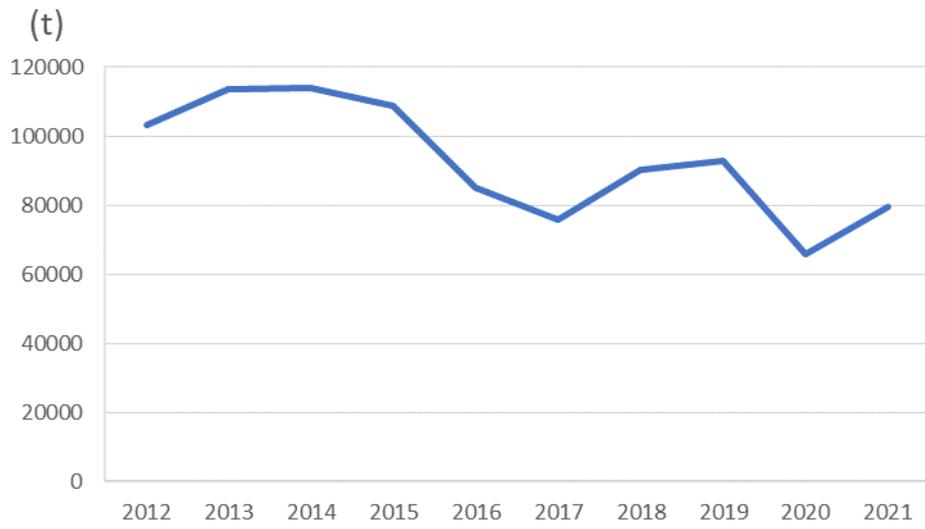


図1 岩手県海面漁業漁獲量の推移
(海面漁業生産統計調査より作成)

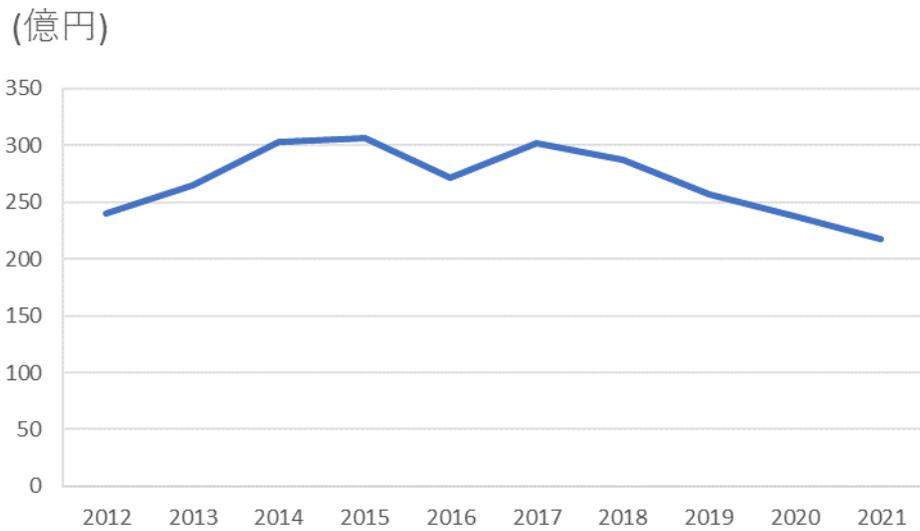


図2 岩手県海面漁業産出額の推移
(海面漁業生産統計調査より作成)

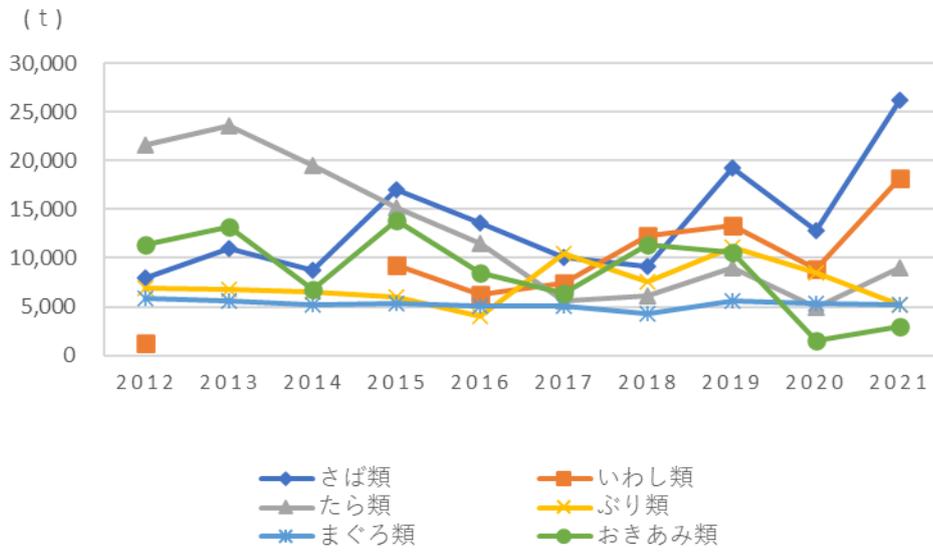


図3 岩手県魚種別漁獲量の推移
(海面漁業生産統計調査より作成)

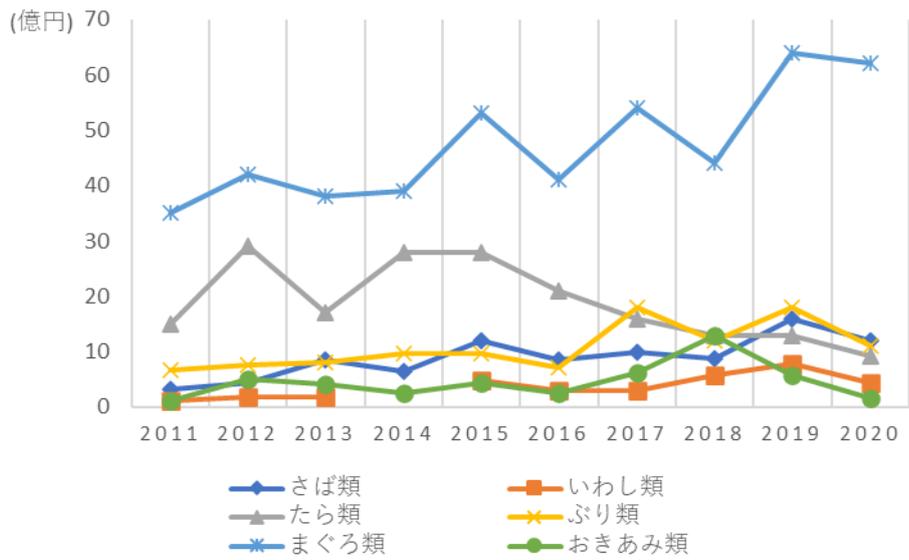


図4 岩手県魚種別産出額の推移
(海面漁業生産統計調査より作成)

* 図3、図4ともにその他の品目を省略

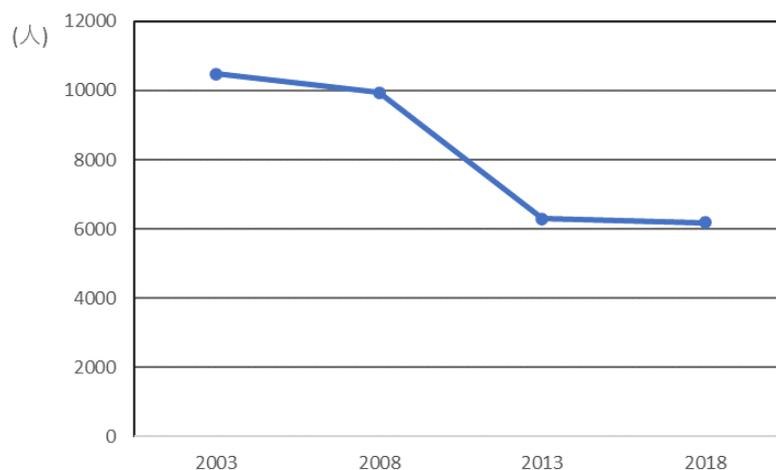


図5 岩手県漁業従事者数の推移
(漁業センサスより作成)

4) 市町村別の漁獲量

表5の岩手県市町村別漁獲量を見ると、県漁獲量の約3分の1を大船渡市が占めていて、大船渡市は県の漁業の中心となっていることが分かる。そのため、次の章からは大船渡市に絞って見ていきたい。

表5 岩手県市町村別漁獲量(2018年)

市区町村	漁獲量(t)	割合(%)
大船渡市	28876	32.0
釜石市	16763	18.6
宮古市	13917	15.4
山田町	5992	6.7
久慈市	5933	6.6
その他	18605	20.7
合計	90086	100

(海面漁業生産統計調査より作成)

3. 大船渡市の漁業

1) 大船渡市の概要

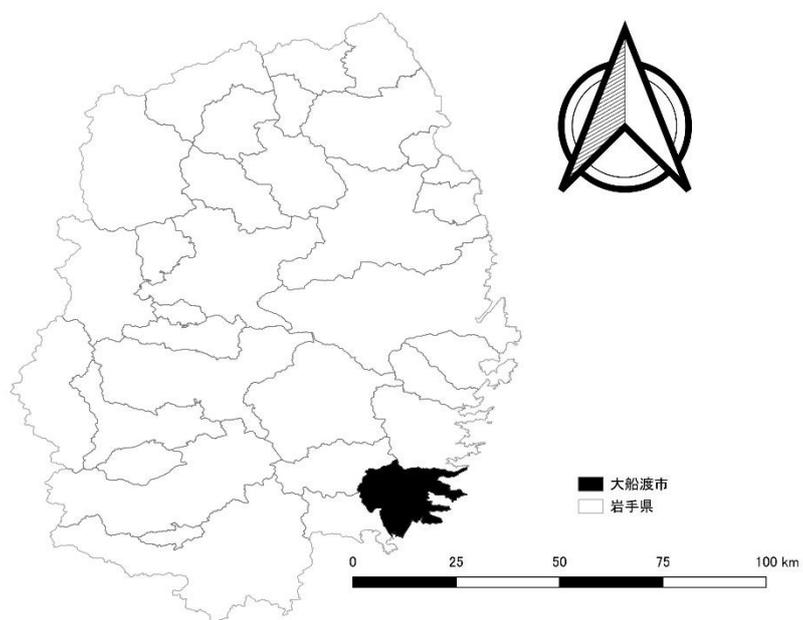


図6 大船渡市の位置(QGISより作成)



図7 大船渡市と調査対象地域
(地理院地図より引用)

2) 漁獲量・漁業従事者数

大船渡市の漁獲量・漁業従事者数について見ていく。図8の大船渡市の漁獲量、図9の釜石市の漁獲量、図10の宮古市の漁獲量を比較してみると、宮古市、釜石市よりも大船渡市は2011年の減少が大きいことが分かる。これにはこのような原因がある。まず、大船渡市、宮古市、釜石市、いずれの市においても大型定置網が最も、船曳網が次いで減少していて、大船渡市はこの2種が減少量の大部分を占めていることがある。また、大型定置網は東日本大震災の津波により定置網が流失して、宮古市が3経営体、釜石市が4経営体、大船渡市が8経営体と大型定置網を営む漁業経営体数が最も多いため相対的に被災の影響が大きかったことがある。つづいて、舟曳網はおきあみ類を漁獲する漁法であり、漁期は3～4月であるため、東日本大震災による漁船や魚市場の被災により漁は3月11日で終わりとなったことも挙げられる。さらに、宮古市と釜石市はたら類の減少が最も大きく、たら類は沖合底引き網によって獲られ、沖合底引き網漁船は東日本大震災で被災していなく、魚市場の営業再開と共に漁業を再開することができたことも挙げられる。

図11の大船渡市の漁業従事者の推移を見ると、2008年をさかいに漁業従事者が大きく減少していることが分かる。実際には2011年をさかいに減少していて、東日本大震災を契機に廃業した人もいて、特に施設設備が必要で出荷まで年月を要する養殖漁業の生産者数は大きく減少したこと、漁業者の減少と高齢化は震災前からの問題であったが、震災によって加速したことが背景としてある。

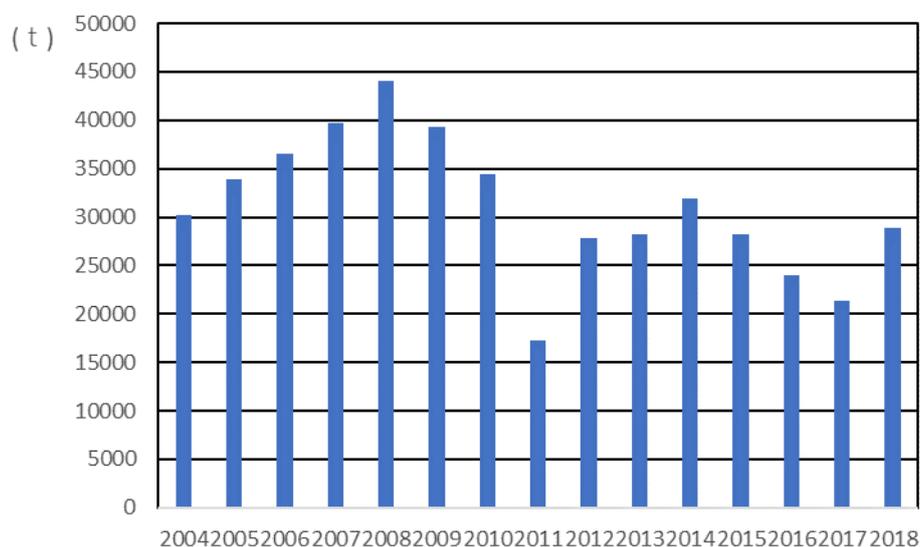


図8 大船渡市漁獲量(2018年)
(海面漁業生産統計調査より作成)

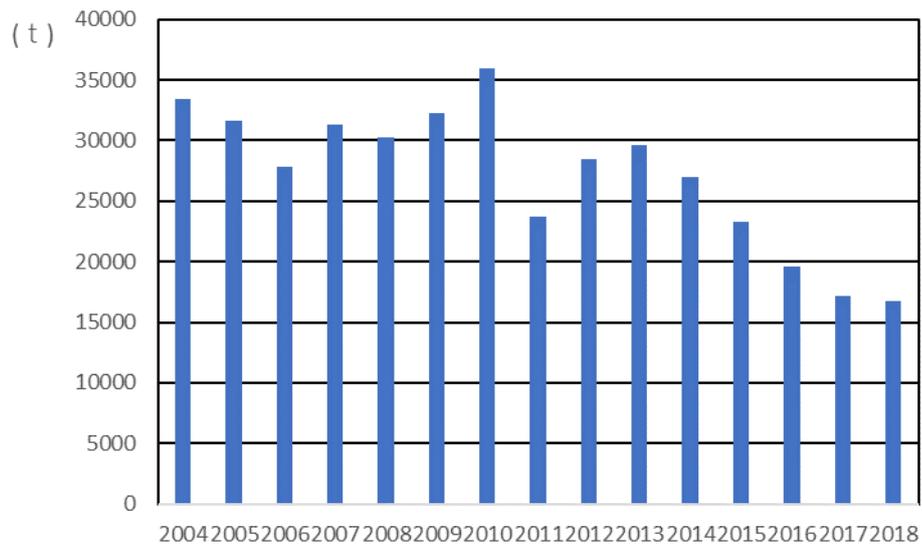


図9 釜石市漁獲量(2018年)
(海面漁業生産統計調査より作成)

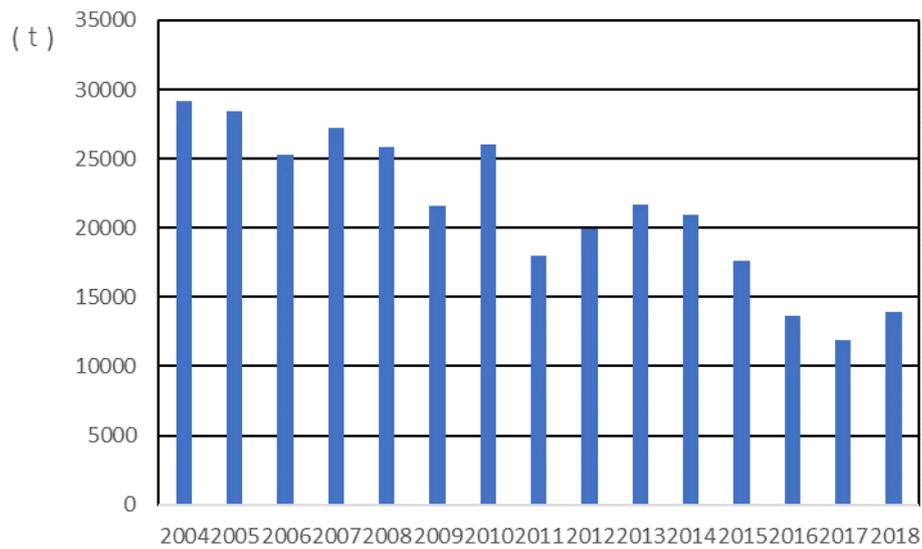


図10 宮古市漁獲量(2018年)
(海面漁業生産統計調査より作成)

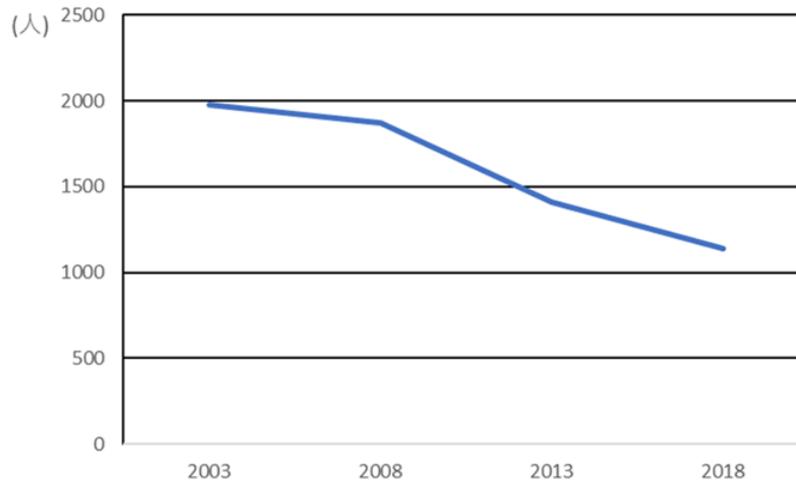


図 11 大船渡市漁業従事者の推移
(漁業センサスより作成)

3) 漁法・魚種

大船渡市の漁法・魚種について見ていく。図 12、図 13、図 14、図 15 を比較してみると、定置網漁の割合は年々減っていて、敷網漁の割合が増えていることが分かる。これにはこのような原因がある。まず、2004 年から 2018 年において定置網は減少傾向、敷網は若干の増加傾向で相対的に敷網漁の割合が年々増加していることがある。また、定置網の漁獲量が減少傾向である理由は定置網で漁獲される主要魚種である秋サケの漁獲量が大幅に減少、さば類が減少傾向であるためである。さらに、敷網漁はさんま棒受網漁であり市内の事業所が大型さんま棒受網漁船を取得したことにより増加傾向となっている。

図 16、図 17、図 18、図 19 を比較してみると、魚種がおきあみ類からさんまに変化したことが分かる。さんまは主に大型さんま棒受網(敷網)により漁獲され、市内の事業所が 2006 年以降、大型さんま棒受網漁船を順次導入したことにより漁獲量が伸び、おきあみ類を超える漁獲量となったことが原因である。

図 20、図 21 を比較してみると、漁業種が秋刀魚棒受網から定置網に変化していることが分かる。これにはこのような原因がある。過去 10 年間の定置網の水揚量が平均年 12496t と微増傾向を示している一方、さんま棒受網については急激に減少しており、2013 年度から 2017 年度の平均水揚量は年 16067t であったが、2018 年から 2022 年までの平均水揚量は年 7117t となっており、半減している状況となっていることがある。また、2 つの漁業種と漁船、漁法、漁獲対象となる魚種が異なるため、割合の変化には直接的な変化はなく、水揚量が減少しているさんま棒受網、微増の定置網の間で相対的に割合が変化しているものと考えられる。

図 22、図 23 を比較してみると、魚種がさんまからいわしに変化していることが分かる。いわしの水揚げ量が増加した要因としては、定置網、いわし旋網(まきあみ)での水揚

げ量が増加したほか、さんまの不漁を受け、2019年度からさんま棒受網漁船がまいわしの火光利用敷網・すくい網の試験操業を開始したことも要因の一つである。

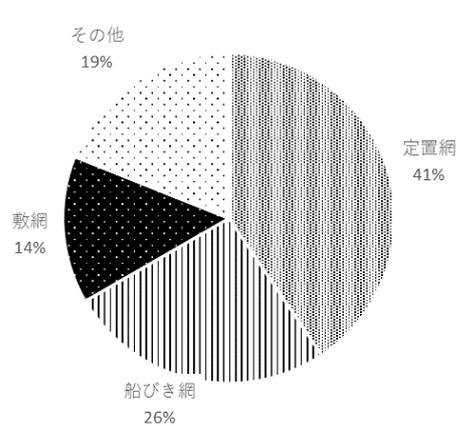


図 12 大船渡市漁業種別漁獲量割合(2004年)合計 33375t
(海面漁業生産統計調査より作成)

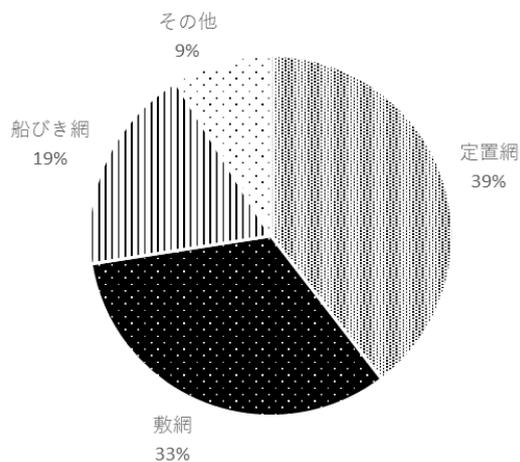


図 13 大船渡市漁業種別漁獲量割合(2008年)合計 44016t
(海面漁業生産統計調査より作成)

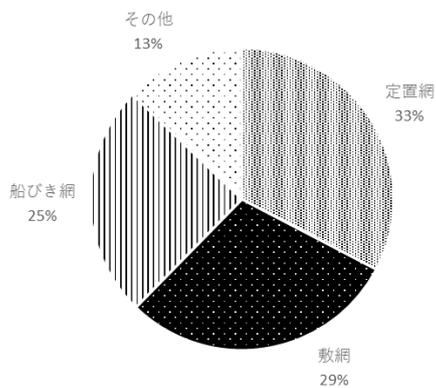


図 14 大船渡市漁業種別漁獲量割合(2013年)合計 28245t
(海面漁業生産統計調査より作成)

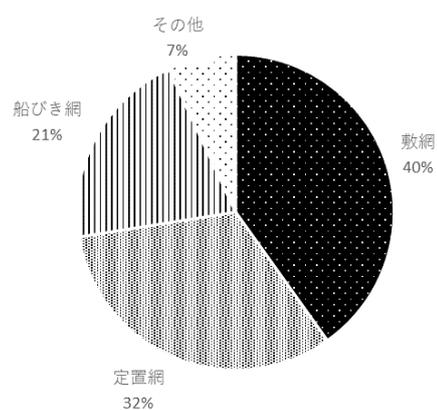


図 15 大船渡市漁業種別漁獲量割合(2018年)合計 28876t
(海面漁業生産統計調査より作成)

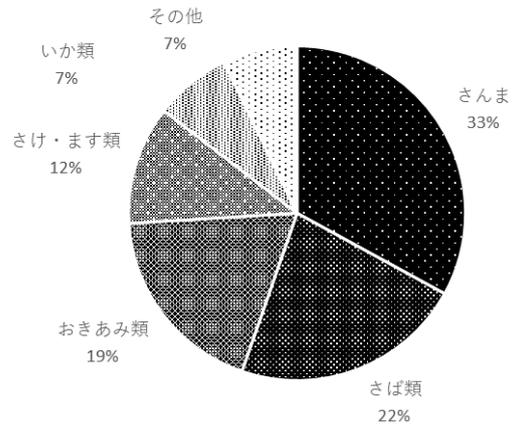
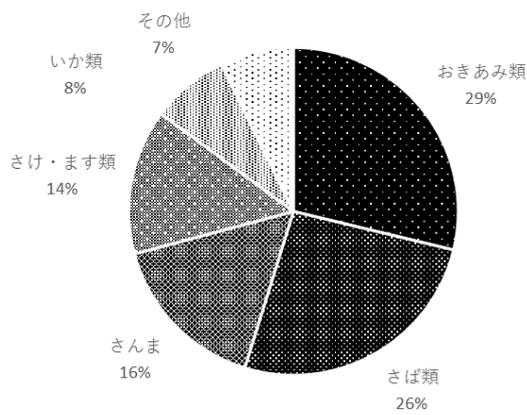


図 16 大船渡市魚種別漁獲量割合(2004)合計 30216t 図 17 大船渡市魚種別漁獲量割合(2008)合計 44020t
(海面漁業生産統計調査より作成)

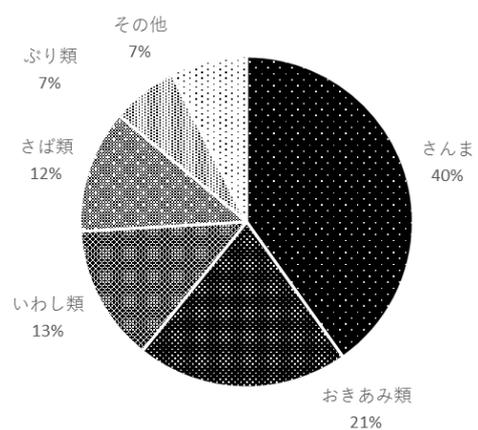
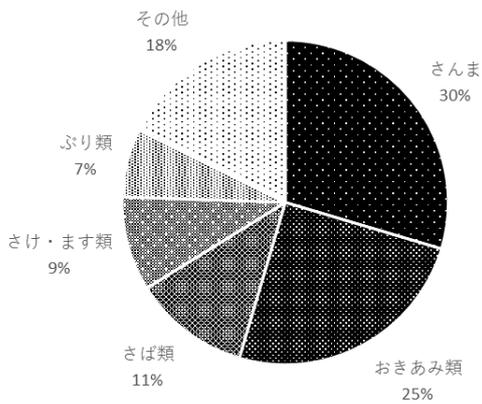


図 18 大船渡市魚種別漁獲量割合(2013)合計 28242t 図 19 大船渡市魚種別漁獲量割合(2018)合計 28875t
(海面漁業生産統計調査より作成)

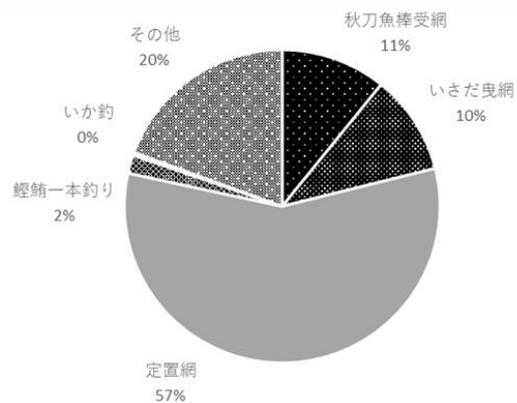
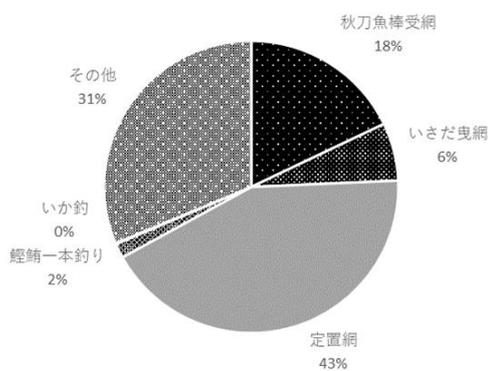


図 20 大船渡市漁業種別漁獲量割合(2019) 35935t 図 21 大船渡市漁業種別漁獲量割合(2022) 28202t
(大船渡魚市場株式会社より作成)

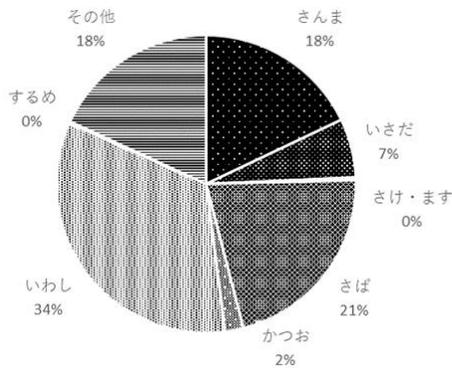


図 22 大船渡市魚種別漁獲量割合(2019) 35935t
(大船渡魚市場株式会社より作成)

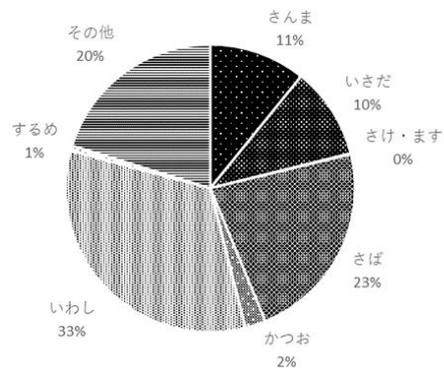


図 23 大船渡市魚種別漁獲量割合(2022) 28202t
(大船渡魚市場株式会社より作成)

4. 大船渡市の水産物の流通

1) 水産物の流通と処理

大船渡市の水産物の流通と処理について見ていく。表 6 の大船渡市さんま処理状況調を見ると、さんまの鮮魚出荷の割合が高いことが分かる。鮮魚出荷は冷凍、加工といったようなほかの処理よりも単価が高く、換金率が高い。鮮魚出荷は冷凍、加工のような処理をしないでよいため回転率が高い。大船渡市では専門を鮮魚としている人が多い。大船渡市でさんまの鮮魚宅配が全国で最も早く行われたといったような理由がある。

表 7 の大船渡市処理状況調を見ると、大船渡市全体では冷凍処理の割合が高いことが分かる。大船渡市は岩手県内で冷凍・冷蔵会社が最も多いことが原因である。

表 6 大船渡市さんま処理状況調(2022)

区分	数量(kg)	数量の比率	1キロ単価(円)	金額(円)	金額の比率
鮮魚出荷	2431312	79.6	681	1656691266	83.4
冷凍	611345	20.0	526	321448344	16.2
加工	11764	0.4	629	7400170	0.4
魚かす	0	0		0	0
合計	3054421	100	650	1985539780	100

(大船渡魚市場株式会社より作成)

表7 大船渡市処理状況調(2022)

区分	数量(kg)	数量の比率	1キロ単価(円)	金額(円)	金額の比率
鮮魚出荷	6962109	24.7	489	3404285561	61.1
冷凍	20451804	72.5	103	2115737758	37.9
加工	458393	1.6	102	46944214	0.8
魚かす	329243	1.2	32	10648033	0.2
合計	28201549	100	198	577615566	100

(大船渡魚市場株式会社より作成)

2)水産物の流通の分布

水産物の流通の分布について見ていく。図24の大船渡魚市場買受人分布(日本全体)を見ると、一部を除けば大船渡市周辺に分布していることが分かる。また、東京都・埼玉県に住所があるのは、東京都・埼玉県に本社、事務があり、大船渡市に卸会社、冷凍保管庫があるためである。

図25の大船渡魚市場買受人分布(大船渡市拡大)を見ると、大船渡市の中でも特に大船渡魚市場のある岸側に分布していることが分かる。また、大船渡魚市場の場所は丸で囲んでいる。

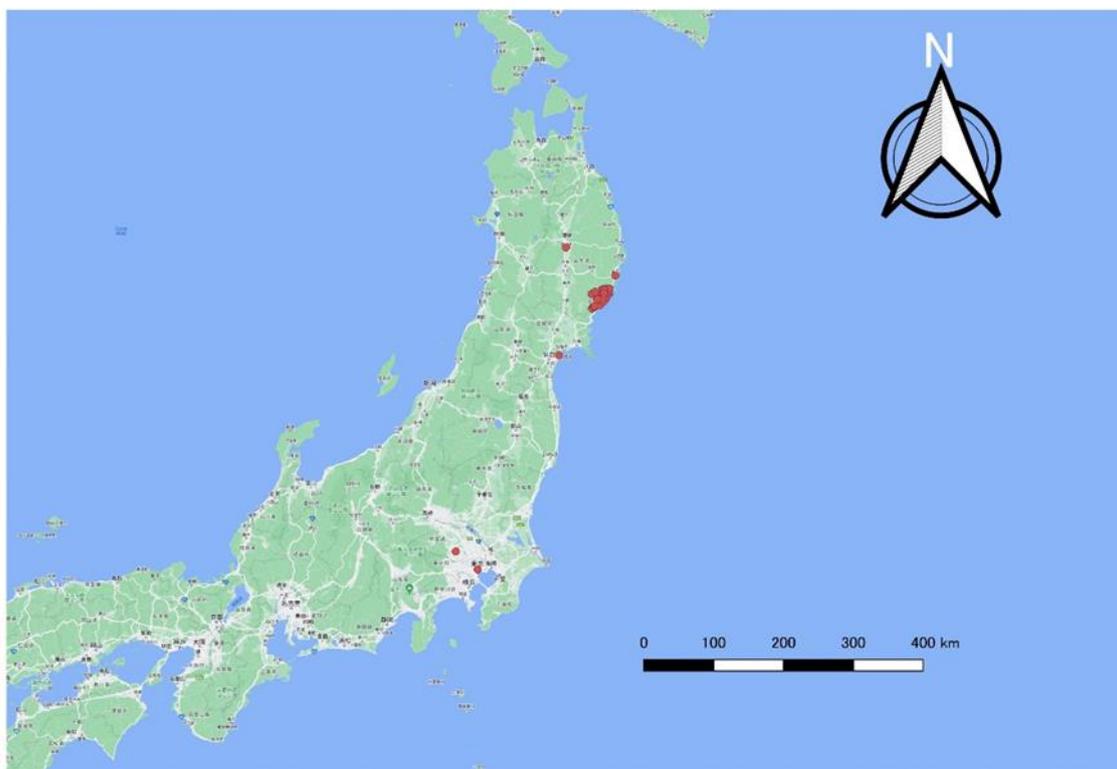


図24 大船渡魚市場買受人分布(日本全体)
(大船渡魚市場提供資料より作成)

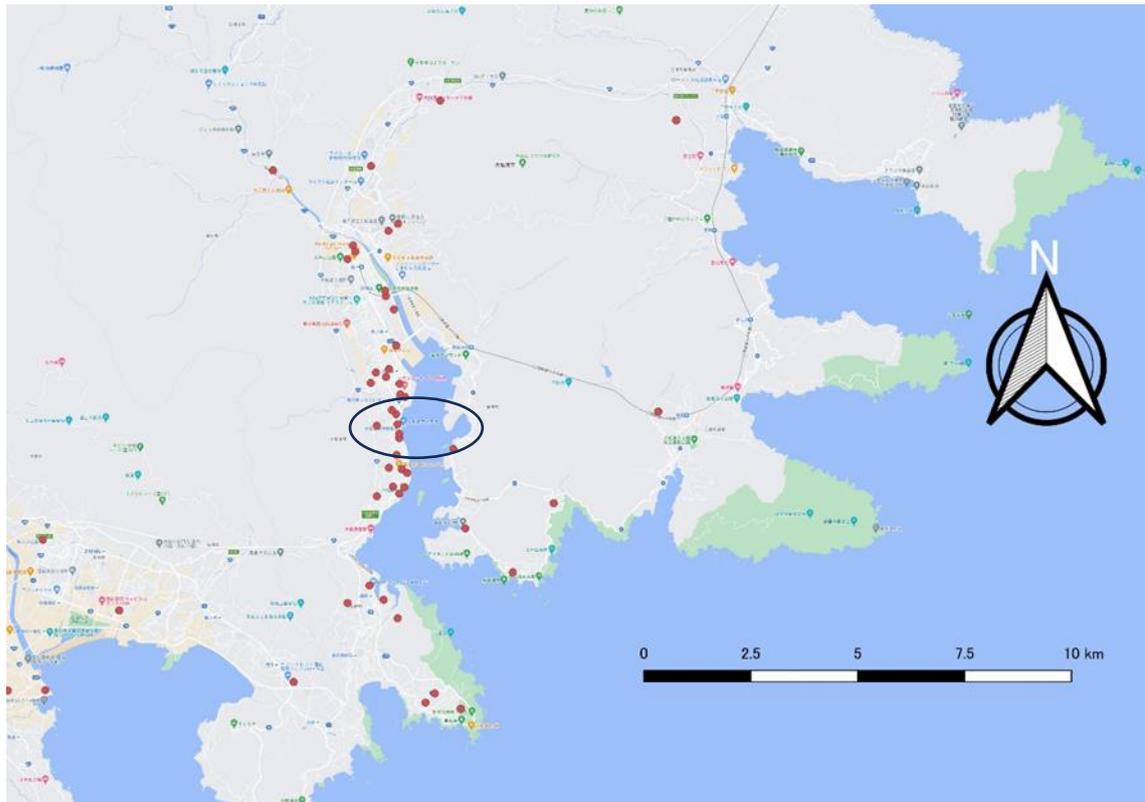


図 25 大船渡魚市場買受人分布(大船渡市拡大)
(大船渡魚市場提供資料より作成)

図 25 において点で示されている買受人の送り先には主に 3つのパターンがある。1つ目は全国に販売しているところである。その中の A 社は、刺身・寿司、煮魚、揚げ魚、スープ、おつまみなどを通販販売している。2つ目は大船渡市を中心に販売しているところである。その中の B 社は、大船渡湾前浜で獲れた鮮度抜群の鮮さんまや各種加工品を主に岩手県の三陸地方で販売している。例えば、盛町の朝市では毎月 0 と 5 のつく日に 7 時頃～10 時頃まで、直販では 5 個で 1,000 円といった冷凍食品や、さんまの時期は早朝入荷した鮮さんまの販売などを行っている。毎年 10 月には大船渡さんままつり、産業まつりを開催している。イオンスーパーセンター陸前高田店、イオンタウン釜石店では加工品のみ販売している。2017 年 4 月に新しくオープンする商業施設「キャッセン・フードビレッジ」にて販売予定である。また、全国に向けてはオンラインショップ等で販売している。3つ目は海外に向けて販売しているところである。その中の C 社は、1995 年より本格的に輸出事業に着手していて、海外拠点を通じ、現地での販促活動等、三陸水産物を PR している。2007 年より直接取引も開始している。いわて農林水産物輸出促進協議会の構成団体としての取組活動をしている。冷凍水産物(さんま、さば、さけ、いか、ほたて)を東南アジア、アフリカ、米国に輸出している。

5. おわりに

本稿では岩手県の漁業、特に中心の大船渡市に絞って調査を行った。岩手県は近年、いわし類、さば類などの小型魚種の漁獲量が増えている一方、漁業産出額はまぐろ類などの高価な魚種が上位をしめている。県内の漁獲量、漁業産出額は減少傾向で、県内の漁業従事者数も減り続けている。

大船渡市については、宮古市や釜石市などの他市よりも東日本大震災の影響をうけていたこと、漁業従事者数が減り続けていること、最も多く獲られている魚種の変化に伴う漁業種の変化なども分かった。流通においては、市内で卸された水産物は市内、全国、海外など様々な範囲に送られていることが分かった。

近年、日本の漁業は漁業従事者の高齢化、後継者不足などにより衰退してきているように岩手県、大船渡市も同じような状況にある。東日本大震災、近年の黒潮の大蛇行、福島第一原子力発電所の汚染水の海洋放出、石油の高騰など様々な苦難が現在あり、これからも新しい苦難が生まれるだろう。このような変化の中で、日本の漁業、岩手県の漁業、大船渡市の漁業がどのように対策し、変化していくのかこれからも関心を持っていきたい。

付記

本稿を作成するにあたり、鎌田水産株式会社様、大船渡市役所農林水産部水産課様、大船渡魚市場株式会社様にはお忙しい中にもかかわらず大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

参考

・農林水産省 海面漁業生産統計調査(最終閲覧日 2024年1月10日)

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kaimen_gyosei/index.html

・農林水産省 漁業センサス(最終閲覧日 2024年1月10日)

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/census/fc/>

・大船渡魚市場ホームページ 水揚統計(最終閲覧日 2024年1月10日)

<https://www.ofunato-fm.com/landing/>

・地理院地図(最終閲覧日 2024年1月10日)

<https://maps.gsi.go.jp/#11/39.087969/141.797791/&base=blank&ls=blank&disp=1&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>

・阿部長商店ホームページ(最終閲覧日 2024年1月10日)

<https://abecho.co.jp/feature/>

・及川冷蔵(株)ホームページ(最終閲覧日 2024年1月10日)

<http://oikawaya.co.jp/customer/>

・大船渡湾冷凍水産加工業協組ホームページ(最終閲覧日 2024年1月10日)

<https://www.bing.com/ck/a?!&&p=6d49283f741c431aJmltdHM9MTcwMTA0MzIwMCZp>

